

中高校生のスポーツ能力と幼年期の遊びとの関連

森 楸¹・井上 勝²・湯地 宏樹³

Relationship Between Students' Sports Ability and Play Experiences in Childhood

Shigeru Mori¹, Masaru Inoue² and Hiroki Yuji³

This study attempts to verify the theory that there are some significant difference between students' sports ability and play experiences in childhood. To determine the individual's sports ability, we judged whether each student belongs to the school extra sports club or non-sports club, and the data of individual's past play experiences are gathered by questionnaire. A questionnaire used in this survey was delivered to 1423 junior high school students and to 1182 senior high school students.

Whether there was the significant difference between regular players and substitute players in sports club was mainly analyzed. As a result, the regular players had high play competences such as the leadership in play groups of childhood, and above all the regular players in ball game teams such as baseball, soccer and volleyball showed higher scores in playfulness scale than substitute players and other students. It is suggested that students' sports abilities are based on past play experiences and playfulness.

Key words: sports ability, regular / substitute player, playfulness, childhood

目 的

中学校、高等学校の部活動は、課外活動として、通常の教科カリキュラムの中では達成できない能力の向上に貢献している。精神や体力の向上はもちろん、個性、社会性などが育つといわれている（白松、1995）。仲間たちと同じ目標に向かうことによって、苦しさや楽しさ、満足感や達成感などを感じる機会にもなっている。

しかし、中高校生のすべてが健全な生活を送っているとはかぎらない。子どもたちを取り巻く環境や社会構造も急激に変化し、精神的な歪みやストレスを生んでいるのも事実である。

本研究は、中高校生の遊び、メディア、スポーツをさまざまなアプローチでもって実証的に明らかにしようとする総合研究の一部である。遊び、メディア、

スポーツをとおして、子どもたちの生活や心身の成長発達に及ぼす影響などに迫ることが目的である。本稿では、中高校生を対象に、質問紙調査のデータによって、かれらの遊びと部活動との関連を、明らかにする。

方 法

(1) 調査対象

広島市内の中・高校生を対象に、1998年7月～12月に実施した。調査サンプル数は、中学生計1423名、高校生計1182名、全体で男子1484名、女子1121名、合計2605名で、推測統計学的分析に耐えうるサンプル数だといえる。

(2) 調査項目

スポーツや運動に関する質問は、所属部（球技関係の運動部、球技関係以外の運動部、文化部、部に入っていない）、正選手か補欠か、及びスポーツや運動の

1 広島修道大学教授
2 広島大学教育学部幼児保健学基幹講座助教授
3 比治山大学短期大学部講師

効果についてである。

遊びの種類については、一人遊び—集団遊び、室内遊び—戸外遊び、伝承遊び—現代の遊び、男の子の遊び—女の子の遊びという観点から、16の遊びを取り上げ、「よくしていた」「まあまあしていた」「あまりしていない」「ぜんぜんしていない」の4段階評定で尋ねている。

遊び能力は相互作用能力(能動性, 応答力, 指導力, 協力度, 喜悦度), 創造的能力(発想力, 工夫力, 技巧度, 関心度), 組織行動能力(規則遵守度, 役割遵守度, 理解力)の3つの領域で構成され, それぞれの下位項目を含んでいると想定できる(森, 1992)。ここでは, その遊び能力を測定するために, 下位項目に相当する12個の質問項目を用意した。例えば, 相互作用能力の「指導力」では「遊びのときに, みんなのなかでは, たいていリーダー的存在だった」, 創造的能力の「工夫力」では「牛乳パックや空き箱などの廃材を利用して, いろいろなものを作っていた」, 組織行動能力の「役割遵守度」では「ままごと遊びやヒーロー(ヒロイン)などのごっこ遊びで, 役になりきっていた」という質問に4段階評定で尋ね, 「ひじょうにそうだった」を4点, 「どちらかといえばそうだった」を3点, 「どちらかといえばそうではなかった」を2点, 「ぜんぜんそうではなかった」を1点とした。下位項目の合計を相互作用能力, 創造的能力, 組織行動能力の得点変数とした。

(3) 調査手続き

調査は質問紙法を用いて行った。授業のなかで担当教師が質問紙を配布し, 回答後, その場で回収した。したがって回収率は100%である。

結果と考察

(1) 中高校生の部活動の実態

対象となった792名の中学生男子のうち, 球技関係の運動部, 球技以外の運動部, 文化部に所属している者は, 62.2%, 14.0%, 16.9%で, 球技関係の運動部が最も多かった(表1)。高校生男子も運動部に所属する者が多い。中高校生の女子は, 球技関係の運動部が多いが, 文化部に所属する者も次いで多い。

また, 中学生と高校生を比較してみても特徴的なのは, 部に「入っていない」, いわゆる帰宅部の高校生が半数近くいることである。部活動への参加割合に中学校と高校とで差があるのは, 進学競争の激しさはもちろん, 課外活動に対する高校側の位置づけ, 生

表1 中高校生の部活動の所属割合

	中学生 792名	高校生 633名	計 1425名
男子			
球技関係の運動部	62.2	29.7	47.8
球技以外の運動部	14.0	16.6	15.2
文化部	16.9	7.9	12.9
入っていない	6.8	45.8	24.1
女子			
球技関係の運動部	41.6	18.90	31.0
球技以外の運動部	14.5	13.00	13.8
文化部	38.2	17.60	28.5
入っていない	5.7	50.50	26.6

注 数値は%。

表2 中高校生の正選手と補欠選手の割合

	中学生 787名	高校生 620名	計 1407名
男子			
正選手	38.2	24.4	32.1
補欠選手	39.5	24.0	32.7
その他	22.2	51.6	35.2
女子			
正選手	23.1	17.8	20.6
補欠選手	33.5	12.6	23.5
その他	43.3	69.6	55.9

注 数値は%。その他は「文化部」または「は入っていない」

徒の自発性の違いなどが考えられる。

運動部に所属する者のなかで, 正選手か補欠選手かを尋ねた結果(表2)をみると, 中学生男子では正選手38.2%補欠選手39.5%, 高校生男子で正選手24.4%補欠選手24.0%とだいたい半々の割合になっている。女子の割合は, 中学生では23.1%対33.5%と補欠選手の方が多く, 高校生では17.8%対12.6%と正選手の方が多いという結果になっている。中学生の女子は, 正選手として活躍する機会が少ないのは問題である。

(2) 子どもの頃の遊び能力

子どもの頃(小学生まで)にどんな遊びをしていたか尋ねた。表3は, 16個の遊びについて「よくしていた」「まあまあしていた」を合わせた数を割合で示したものである。全体の割合の高いものから順に並べている。中高校生が最も遊んでいた割合が高かったのは, 「缶けり・おにごっこ」で77.1%だった。つぎによく遊んでいるのは「ドッジボール」が76.9%, 「テレビゲーム」が69.3%, 「バドミントン」が50.0%となっている。テレビゲームで遊んだものは7割近

表3 男女別にみた子どもの頃していた遊びの割合

	男子 1484名		女子 1121名		中学生 1423名		高校生 1182名		全体 2605名
缶けり・おにごっこ	73.7	<<	81.7		71.8	<<	83.6		77.1
ドッジボール	78.1		75.3		72.7	<<	82.1		76.9
テレビゲーム	80.3	>>	54.7		73.4	>>	64.1		69.3
バトミントン	31.5	<<	74.5		47.7	<	52.8		50.0
ろくむし	51.6	>	47.1		46.6	<<	53.7		49.7
サッカー	71.0	>>	17.3		48.7		46.8		47.9
野球(三角ベース)	65.2	>>	28.2		45.8	<<	53.7		46.3
積み木・パズル	33.9	<<	59.6		40.5	<<	50.3		44.9
ローラースケート	28.8	<<	59.9		41.6		42.9		42.2
(大)なわとび・まりつき	21.9	<<	64.0		35.2	<<	46.0		40.1
ミニ4駆・プラモデル作り	64.8	>>	6.4		37.6	<<	42.6		39.8
人形	11.1	<<	68.3		31.5	<<	40.8		35.7
さかな釣り	46.2	>>	20.1		35.6		34.5		35.1
囲碁・将棋	37.0	>>	11.9		29.1	>>	22.9		26.3
メンコ・ビー玉	27.0	>>	20.3		20.8	<<	28.3		24.1
お手玉・おはじき	8.0	<<	29.8		16.1		19.1		17.4

注 数値は%。「よくしていた」「まあまあしていた」を合わせた割合。

> p<.05, >> p<.01

くいるが、それよりも缶けり・おにごっこやドッジボールが上回っている。「囲碁・将棋」「メンコ・ビー玉」「お手玉・おはじき」は、それぞれ26.3%、24.1%、17.4%と割合が低く、3割を下回っている。

つぎに、男女で比較すると、男子が女子より遊んでいたのは、テレビゲーム、サッカー、野球、ミニ4駆・プラモデル作り、さかな釣り、囲碁・将棋、メンコ・ビー玉であった。女子が男子よりもよく遊んでいたのは、缶けり・おにごっこ、バトミントン、積み木・パズル、ローラースケート、(大)なわとび・まりつき、人形、お手玉・おはじきであった。子ども時代の遊びの種類には明らかに男女差が見られる。

中学生と高校生別にみても、遊んでいた割合が5割を超す遊びは、高校生では7つあるのに対して、中学生では3つしかない。統計的な差がみられたもののうち、テレビゲーム、囲碁・将棋の2つだけは中学生が高校生よりもよく遊んでいたが、他はすべて高校生の方がよく遊んでいた。ほとんどの遊びにおいて高校生が中学生よりも割合が高かったのは、それだけ多様な遊びが少なくなってきたからだろう。すなわち、中学生と高校生との差は、子どもの遊びの変遷過程を意味している。缶けり・おにごっこ、ろくむしなどの戸外における伝承遊びが減少している一方で、テレビゲーム、囲碁・将棋のような室内遊びが増加しているのは気になることである。子どもが遊ばなくなったといわれて久しいが、現在の中高校生でもこれだけの差があるのだから、今と昔の遊びは急速に変化しているといえよう。

子どもの頃を振り返って、どのように遊んでいた

か、遊び能力の自己評価の結果が表4である。男女別で差を分散分析によって検定したところ、相互作用能力と相互作用能力の中の協力度、喜悦度、及び組織行動能力と組織行動能力の中の、役割遵守度は、女子が男子よりも高く評価している。一方、相互作用能力における応答力、創造的能力、創造的能力の中の発想力、工夫力、及び組織行動能力の中の規則遵守度は、男子が女子よりも高く評価している。遊び能力全体では男子32.02、女子32.31と差がみられないが、男子は創造的能力に優れ、女子は相互作用能力、組織行動能力に長けているという特徴があらわれている。

表4 男女別にみた子どもの頃の遊び能力

	男子 1035名		女子 1115名		全体 2150名
遊び能力	32.02		32.31		32.14
相互作用能力	15.18	<<	15.51		15.32
能動性	3.20		3.23		3.22
応答力	3.02	>	2.96		3.00
指導力	2.20		2.18		2.19
協力度	3.49	<<	3.71		3.59
喜悦度	3.25	<<	3.41		3.32
創造的能力	9.82	>>	9.53		9.70
発想力	2.14	>>	1.93		2.97
工夫力	1.89	>	1.81		3.15
技巧度	2.84		2.91		2.88
関心度	2.95		2.88		2.92
組織行動能力	7.01	<<	7.25		7.11
規則遵守度	2.55	>>	2.37		2.47
役割遵守度	1.74	<<	2.24		1.96
理解力	2.70		2.63		2.67

注 相互作用能力=能動性+応答性+指導力+協力度+喜悦度

創造的能力=発想力+工夫力+技巧度+関心度

組織行動能力=規則遵守度+役割遵守度+理解力

遊び能力=相互作用能力+創造的能力+組織行動能力

> p<.05, >> p<.01

(3) 子どもの頃の遊びは部活動と関連が高い

現在、運動部に所属している生徒たちは、子どもの頃にどんな遊びをしていたのだろうか。運動部、文化部で子どもの頃していた遊びに差がみられるだろうか。

ここでは、中高校生の部活動に子どもの頃の遊びが関係しているかどうかをみていく。

表5は、現在所属している部活動別に子どもの頃の遊びの割合を示したものである。χ²検定によって、危険率5%未満で有意差がみられた項目をアスタリスクで示している。

男子の結果から、有意差のある遊びからみていくと、人形遊びは球技関係が8.9%と男子全体の割合11.1%よりも低い(表3)が、球技以外、文化部はそれぞれ15.0%、14.4%と高い。積み木・パズルは球技

関係が29.6%と他よりも低い割合になっている(男子全体では33.9%)。ローラースケートは球技関係が32.1%と他よりも高い割合になっている(男子全体では28.8%)。さかな釣り、ろくむしは、文化部の割合が低く、それぞれ35.2%、39.1%となっている。ドッジボール、野球、サッカーの3つはいずれも球技関係が最も高い割合になっており、文化部と比べると10ポイント以上の差になっている。男子では、球技関係の部活動に所属する者と、文化部に所属する者として、子ども時代の遊びにはっきりとした違いを見出すことができる。すなわち、球技関係の部活動に所属する人は、子どもの頃からボールを使った遊びなどが活発だが、文化部の人は外遊びをあまりしていない様子が見える。

それでは、女子の結果ではどうだろうか。ローラースケートは、無所属の者が66.9%と最も高く、文化部

表5 男女別にみた所属部と遊びの種類との関係

	中学生				高校生				主 効 果		
	球技関係		球技以外		球技関係		球技以外		運動部 F値	正補 F値	中高 F値
	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠			
遊び能力	81	136	39	31	47	34	37	23	7.08**		9.45**
相互作用能力	33.36	32.48	30.33	31.45	34.46	32.58	34.14	32.96	9.08**		7.43**
能 動 性	15.97	15.68	14.74	15.52	16.7	15.97	16.00	15.50	3.88*		
応 答 力	3.31	3.34	3.13	3.22	3.39	3.50	3.24	3.25			7.22**
喜 悦 度	2.91	2.99	2.62	2.84	3.09	3.00	3.22	3.04			
指 導 力	3.55	3.47	3.28	3.41	3.67	3.62	3.51	3.42	5.43*		
協 力 度	2.56	2.16	1.95	2.25	2.78	2.24	2.43	2.08	9.02**	12.67**	4.15*
創造的能力	3.66	3.72	3.75	3.74	3.74	3.70	3.67	3.71			
発 想 力	9.87	9.96	9.08	9.06	9.78	9.09	10.31	10.33			
工 夫 力	1.98	2.10	1.73	1.71	2.06	1.70	2.22	2.04			
技 巧 度	1.86	1.89	1.83	1.74	1.81	1.79	1.92	2.00			
関 心 度	2.92	2.91	2.95	2.94	2.85	2.85	3.06	3.08			
組織行動能力	3.05	3.06	2.58	2.62	3.11	2.79	3.19	3.21			
規則遵守度	7.52	6.84	6.51	6.87	7.98	7.52	7.83	7.12	4.67*	7.06**	14.45**
役割遵守度	2.59	2.19	2.03	2.19	2.77	2.62	2.75	2.25	5.94*	8.91**	13.78**
理 解 力	2.23	2.14	2.03	2.03	2.34	2.29	2.31	2.33			
	2.67	2.51	2.50	2.62	2.87	2.56	2.86	2.54			

*p<.05, **p<.01

表6 男女別にみた所属部と遊び能力との関係

	中学生				高校生				主 効 果		
	球技関係		球技以外		球技関係		球技以外		運動部 F値	正補 F値	中高 F値
	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠			
遊び能力	81	136	39	31	47	34	37	23	7.08**		9.45**
相互作用能力	33.36	32.48	30.33	31.45	34.46	32.58	34.14	32.96	9.08**		7.43**
能 動 性	15.97	15.68	14.74	15.52	16.7	15.97	16.00	15.50	3.88*		
応 答 力	3.31	3.34	3.13	3.22	3.39	3.50	3.24	3.25			7.22**
喜 悦 度	2.91	2.99	2.62	2.84	3.09	3.00	3.22	3.04			
指 導 力	3.55	3.47	3.28	3.41	3.67	3.62	3.51	3.42	5.43*		
協 力 度	2.56	2.16	1.95	2.25	2.78	2.24	2.43	2.08	9.02**	12.67**	4.15*
創造的能力	3.66	3.72	3.75	3.74	3.74	3.70	3.67	3.71			
発 想 力	9.87	9.96	9.08	9.06	9.78	9.09	10.31	10.33			
工 夫 力	1.98	2.10	1.73	1.71	2.06	1.70	2.22	2.04			
技 巧 度	1.86	1.89	1.83	1.74	1.81	1.79	1.92	2.00			
関 心 度	2.92	2.91	2.95	2.94	2.85	2.85	3.06	3.08			
組織行動能力	3.05	3.06	2.58	2.62	3.11	2.79	3.19	3.21			
規則遵守度	7.52	6.84	6.51	6.87	7.98	7.52	7.83	7.12	4.67*	7.06**	14.45**
役割遵守度	2.59	2.19	2.03	2.19	2.77	2.62	2.75	2.25	5.94*	8.91**	13.78**
理 解 力	2.23	2.14	2.03	2.03	2.34	2.29	2.31	2.33			
	2.67	2.51	2.50	2.62	2.87	2.56	2.86	2.54			

*p<.05, **p<.01

は54.6%と低かった(女子全体では59.9%)。さかな釣りは球技以外の運動部が26.5%と最も高いが、文化部は13.9%と低い(女子全体では20.1%)。缶けり・おにごっこは球技以外の運動部の88.5%、無所属の86.3%が高い割合になっている。ろくむしは文化部の40.7%が他よりも低いのが目立っている(女子全体では47.1%)。ドッジボールと野球といったボール遊びは男子と同様に球技関係の運動部がそれぞれ80.9%、35.8%と高いが、ついで無所属の人たちも高くなっている。女子の結果では、球技関係の運動部がボール遊びをよくしていたこと、球技以外の運動部はさかな釣り、缶けり・おにごっこなど外遊びを積極的にしていたことが特徴として挙げられる。無所属の人も外遊びを盛んに行っていた点も見逃せない結果である。

(4) 球技関係の運動部は遊びの能力が高い

部活動別では子どもの頃の遊びの種類に明らかな違いが見られたが、遊び能力という側面ではどうだろうか。ここでは、遊び能力の得点を従属変数として分散分析を用いて、部活動における差の検定を行った。

男女両方に共通してみられる特徴としてまず挙げられるのは、「遊びの能力」(相互作用能力と創造的能力と組織行動能力の総和)についてである。男子では、球技関係32.61、球技以外31.78、文化部31.35、無所属31.32、女子では、球技関係33.03、球技以外31.87、文化部31.89、無所属32.33と、男女とも球技関係の運動部が最も高い得点になっている。

「相互作用能力」においては、男子では球技関係

15.60、球技以外14.98、文化部14.52、無所属14.93、女子では球技関係15.99、球技以外15.34、文化部15.22、無所属15.50と、球技関係の運動部が最も高い得点になっている。それを裏づけるように、「相互作用能力」の下位項目をみても、男女とも能動性、喜悦度、指導力において、球技関係がそれぞれ男子3.40、3.34、2.28、女子3.37、3.54、2.37と最も高い数値になっている。

「創造的能力」は男子においてのみ差がみられ、球技関係9.94、球技以外9.69、文化部10.01、無所属9.46と、文化部が最も高い数値になっていた。下位項目では、発想力では男子において有意で球技関係の2.21が最も高い。関心度では男女とも、球技関係がそれぞれ3.69、3.02と最も高い。工夫力は、男子において有意で文化部が2.22と最も高い数値になっていた。

「組織行動能力」では男女とも差がみられなかった。

以上より球技関係の運動部に所属する生徒たちの特徴は、いろいろな遊びに関心をもち(関心度)、遊びを心から楽しみ(喜悦度)、リーダーシップを発揮しながら(指導力)、友だちと積極的にかかわって(能動性)遊んでいた子どもだったと想像できるだろう。文化部の人は相互作用能力は低い、廃材などを利用して遊ぶ(工夫力)など、創造的能力に優れている面をもっているといえよう。

(5) 正選手、補欠選手の子どもの頃の遊び

運動部と文化部では、子どもの頃の遊びや遊び能力に違いがみられることははっきりしている。しか

表7 球技関係と球技以外の運動部の中・高別、正選手・補欠選手別の遊びの種類(男子)

	中学生				高校生				主 効 果		
	球技関係		球技以外		球技関係		球技以外		運動部 F値	正補 F値	中高 F値
	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠			
遊び能力	33.36	32.48	30.33	31.45	34.46	32.58	34.14	32.96	7.08**		9.45**
相互作用能力	15.97	15.68	14.74	15.52	16.7	15.97	16.00	15.50	9.08**		7.43**
能 動 性	3.31	3.34	3.13	3.22	3.39	3.50	3.24	3.25	3.88*		
応 答 力	2.91	2.99	2.62	2.84	3.09	3.00	3.22	3.04			7.22**
喜 悦 度	3.55	3.47	3.28	3.41	3.67	3.62	3.51	3.42	5.43*		
指 導 力	2.56	2.16	1.95	2.25	2.78	2.24	2.43	2.08	9.02**	12.67**	4.15*
協 力 度	3.66	3.72	3.75	3.74	3.74	3.70	3.67	3.71			
創造的能力	9.87	9.96	9.08	9.06	9.78	9.09	10.31	10.33			
発 想 力	1.98	2.10	1.73	1.71	2.06	1.70	2.22	2.04			
工 夫 力	1.86	1.89	1.83	1.74	1.81	1.79	1.92	2.00			
技 巧 度	2.92	2.91	2.95	2.94	2.85	2.85	3.06	3.08			
関 心 度	3.05	3.06	2.58	2.62	3.11	2.79	3.19	3.21			
組織行動能力	7.52	6.84	6.51	6.87	7.98	7.52	7.83	7.12	4.67*	7.06**	14.45**
規則遵守度	2.59	2.19	2.03	2.19	2.77	2.62	2.75	2.25	5.94*	8.91**	13.78**
役割遵守度	2.23	2.14	2.03	2.03	2.34	2.29	2.31	2.33			
理 解 力	2.67	2.51	2.50	2.62	2.87	2.56	2.86	2.54			

*p<.05, **p<.01

表8 球技関係と球技以外の運動部の中・高別、正選手・補欠選手別の遊びの種類(女子)

	中学生				高校生				主効果		
	球技関係		球技以外		球技関係		球技以外		運動部 F値	正補 F値	中高 F値
	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠			
遊び能力	33.36	32.48	30.33	31.45	34.46	32.58	34.14	32.96	7.08**		9.45**
相互作用能力	15.97	15.68	14.74	15.52	16.7	15.97	16.00	15.50	9.08**		7.43**
能動性	3.31	3.34	3.13	3.22	3.39	3.50	3.24	3.25	3.88*		
応答力	2.91	2.99	2.62	2.84	3.09	3.00	3.22	3.04			7.22**
喜悅度	3.55	3.47	3.28	3.41	3.67	3.62	3.51	3.42	5.43*		
指導力	2.56	2.16	1.95	2.25	2.78	2.24	2.43	2.08	9.02**	12.67**	4.15*
協力度	3.66	3.72	3.75	3.74	3.74	3.70	3.67	3.71			
創造的能力	9.87	9.96	9.08	9.06	9.78	9.09	10.31	10.33			
発想力	1.98	2.10	1.73	1.71	2.06	1.70	2.22	2.04			
工夫力	1.86	1.89	1.83	1.74	1.81	1.79	1.92	2.00			
技巧度	2.92	2.91	2.95	2.94	2.85	2.85	3.06	3.08			
関心度	3.05	3.06	2.58	2.62	3.11	2.79	3.19	3.21			
組織行動能力	7.52	6.84	6.51	6.87	7.98	7.52	7.83	7.12	4.67*	7.06**	14.45**
規則遵守度	2.59	2.19	2.03	2.19	2.77	2.62	2.75	2.25	5.94*	8.91**	13.78**
役割遵守度	2.23	2.14	2.03	2.03	2.34	2.29	2.31	2.33			
理解力	2.67	2.51	2.50	2.62	2.87	2.56	2.86	2.54			

* $p < .05$, ** $p < .01$

し、同じ運動部でも球技関係のスポーツと球技以外のスポーツでは種類が異なる。また、中学校と高校の部活動も同じスポーツをやっているとはいえ、その内容は当然異なると考えられる。正選手で活躍している人と補欠選手との間でも、子どもの頃の遊びに差がみられるだろうか。

そこで、ここでは運動部(球技関係・球技以外)×正補(正選手・補欠選手)×中高(中学・高校)の3要因分散分析によって、部活動と遊びとの関連をさらに詳しくみていく。

表7と8は、遊びの種類を従属変数(「よくしていた」「まあまあしていた」を1点、「あまりしていない」

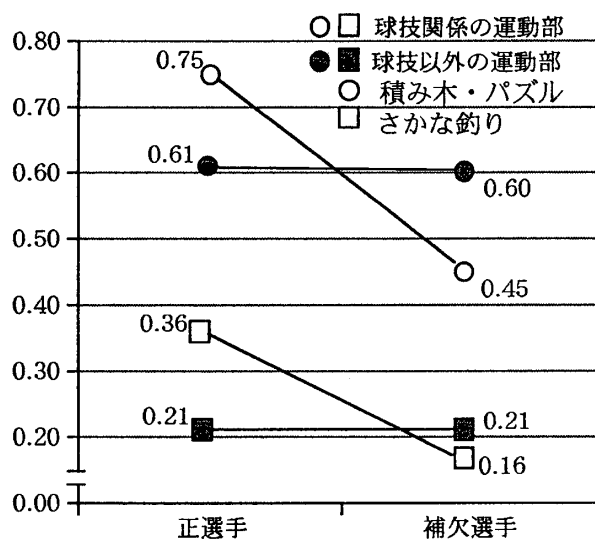


図1 球技関係と球技以外の運動部別にみた積み木・パズル遊びとさかな釣り

「ぜんぜんしていない」を0点)にして、男子と女子と分けて分析し、中高生別、球技と球技以外別、さらに正選手、補欠選手別に示したものである。運動部と中高の結果はこれまでと重複するところがあるので、正選手・補欠選手の主効果と交互作用が有意だったものを中心に以下説明する。なお、正選手・補欠選手の平均値は表にないので、文中に示す。

男子の結果で正補の主効果がみられたのは、積み木・パズルのみだった。すなわち、正選手0.29(410名)よりも補欠選手0.35(417名)の得点が高かった($t = 2.00, p < .05$)。正選手は補欠選手よりも、積み木・パズルであまり遊んでいなかったことになる。

女子の結果で正補の主効果がみられたのは、お手玉・おはじき、積み木・パズル、缶けり・おにごっこ、ろくむしの4つだった。お手玉・おはじきは、正選手0.38(204名)、補欠選手0.24(224名)、積み木・パズルは正選手0.66、補欠選手0.56、缶けり・おにごっこは正選手0.90、補欠選手0.78、ろくむしは正選手0.58、補欠選手0.44と、いずれも正選手の方が得点が高かった(それぞれ、 $t = 2.98, p < .01$; $t = 2.88, p < .01$; $t = 3.45, p < .01$; $t = 3.08, p < .01$)。

女子の積み木・パズル、さかな釣りの遊びにおいて、運動部×正補の交互作用($F(1, 409) = 7.40, p < .01$; $F(1, 409) = 5.31, p < .05$)が有意だった。すなわち、球技関係では正選手と補欠選手の間には差はみられないが、球技以外の運動部においては、積み木・パズルは正選手0.75、補欠選手0.45、さかな釣りは正選手0.36、補欠選手0.16と、正選手の方が得点

表9 球技関係と球技以外の運動部の中・高別、正選手・補欠選手別の遊びの能力 (男子)

	中学生				高校生				主 効 果		
	球技関係		球技以外		球技関係		球技以外		運動部 F値	正補 F値	中高 F値
	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠			
遊び能力	33.36	32.48	30.33	31.45	34.46	32.58	34.14	32.96	7.08**		9.45**
相互作用能力	15.97	15.68	14.74	15.52	16.7	15.97	16.00	15.50	9.08**		7.43**
能 動 性	3.31	3.34	3.13	3.22	3.39	3.50	3.24	3.25	3.88*		
応 答 力	2.91	2.99	2.62	2.84	3.09	3.00	3.22	3.04			7.22**
喜 悦 度	3.55	3.47	3.28	3.41	3.67	3.62	3.51	3.42	5.43*		
指 導 力	2.56	2.16	1.95	2.25	2.78	2.24	2.43	2.08	9.02**	12.67**	4.15*
協 力 度	3.66	3.72	3.75	3.74	3.74	3.70	3.67	3.71			
創造的能力	9.87	9.96	9.08	9.06	9.78	9.09	10.31	10.33			
発 想 力	1.98	2.10	1.73	1.71	2.06	1.70	2.22	2.04			
工 夫 力	1.86	1.89	1.83	1.74	1.81	1.79	1.92	2.00			
技 巧 度	2.92	2.91	2.95	2.94	2.85	2.85	3.06	3.08			
関 心 度	3.05	3.06	2.58	2.62	3.11	2.79	3.19	3.21			
組織行動能力	7.52	6.84	6.51	6.87	7.98	7.52	7.83	7.12	4.67*	7.06**	14.45**
規則遵守度	2.59	2.19	2.03	2.19	2.77	2.62	2.75	2.25	5.94*	8.91**	13.78**
役割遵守度	2.23	2.14	2.03	2.03	2.34	2.29	2.31	2.33			
理 解 力	2.67	2.51	2.50	2.62	2.87	2.56	2.86	2.54			

*p<.05, **p<.01

表10 球技関係と球技以外の運動部の中・高別、正選手・補欠選手別の遊びの能力 (女子)

	中学生				高校生				主 効 果		
	球技関係		球技以外		球技関係		球技以外		運動部 F値	正補 F値	中高 F値
	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠	正選手	補欠			
遊び能力	33.36	32.48	30.33	31.45	34.46	32.58	34.14	32.96	7.08**		9.45**
相互作用能力	15.97	15.68	14.74	15.52	16.7	15.97	16.00	15.50	9.08**		7.43**
能 動 性	3.31	3.34	3.13	3.22	3.39	3.50	3.24	3.25	3.88*		
応 答 力	2.91	2.99	2.62	2.84	3.09	3.00	3.22	3.04			7.22**
喜 悦 度	3.55	3.47	3.28	3.41	3.67	3.62	3.51	3.42	5.43*		
指 導 力	2.56	2.16	1.95	2.25	2.78	2.24	2.43	2.08	9.02**	12.67**	4.15*
協 力 度	3.66	3.72	3.75	3.74	3.74	3.70	3.67	3.71			
創造的能力	9.87	9.96	9.08	9.06	9.78	9.09	10.31	10.33			
発 想 力	1.98	2.10	1.73	1.71	2.06	1.70	2.22	2.04			
工 夫 力	1.86	1.89	1.83	1.74	1.81	1.79	1.92	2.00			
技 巧 度	2.92	2.91	2.95	2.94	2.85	2.85	3.06	3.08			
関 心 度	3.05	3.06	2.58	2.62	3.11	2.79	3.19	3.21			
組織行動能力	7.52	6.84	6.51	6.87	7.98	7.52	7.83	7.12	4.67*	7.06**	14.45**
規則遵守度	2.59	2.19	2.03	2.19	2.77	2.62	2.75	2.25	5.94*	8.91**	13.78**
役割遵守度	2.23	2.14	2.03	2.03	2.34	2.29	2.31	2.33			
理 解 力	2.67	2.51	2.50	2.62	2.87	2.56	2.86	2.54			

*p<.05, **p<.01

が高くなっている。スポーツとの関係についての説明は難しいが、正選手は子どもの頃にこれらの遊びに積極的にかかわっていたと推測できる。

(6) 正選手、補欠選手の遊び能力

男子の結果、正補の主効果がみられたのは、相互作用能力、指導力だった。相互作用能力は正選手15.61、補欠選手15.39、指導力は正選手2.36、補欠選手2.14と、いずれも正選手の方が得点が高かった(それぞれ、 $t=2.20, p<.05$; $t=3.93, p<.01$)。

男子の指導力において、中高×正補の交互作用 ($F(1, 827) = 8.33, p<.01$)、「遊び能力」において運動部×正補の交互作用 ($F(1, 827) = 6.36, p<.05$) が認められた。すなわち、指導力では中学生の正選手2.40、補欠選手2.05、高校生の正選手2.27、補欠選手

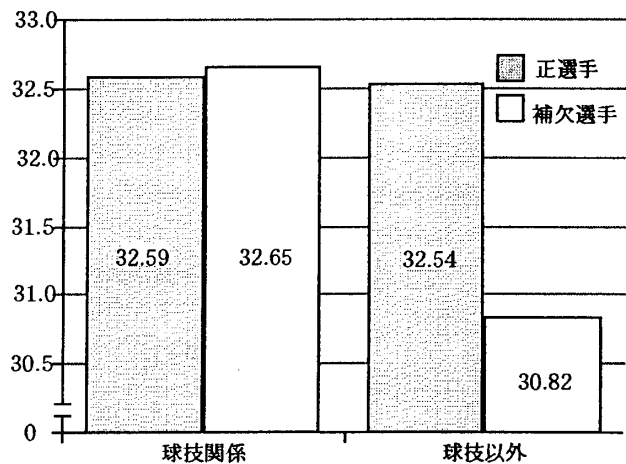


図2 球技関係と球技以外の運動部別にみた「遊び能力」(男子)

まとめと課題

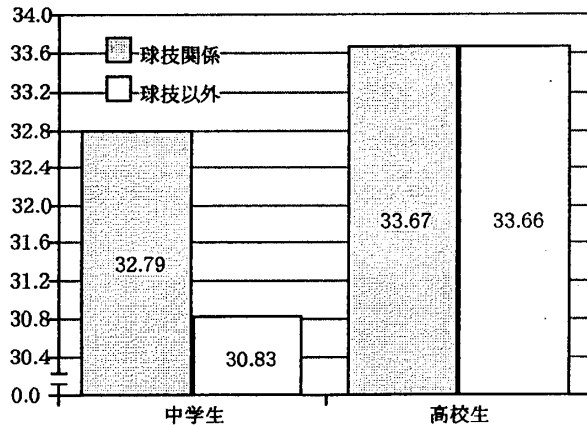


図3 球技関係と球技以外の運動部別にみた「遊び能力」(女子)

2.34と、子どもの頃の遊びにおいてリーダーシップを發揮するような指導力をもっている子は、中学生の運動部で正選手として活躍する可能性があり、高校生ではその影響があまりないと解釈できるだろう。「遊び能力」をみると(図2)、球技関係の正選手、補欠選手、球技以外の正選手の3者間には差がみられないが、球技以外の補欠選手は30.82と他より低い数値になっている。

女子の結果で正補の主効果がみられたのは、指導力、組織行動能力、規則遵守度の3つだった。指導力は正選手2.47、補欠選手2.17、組織行動能力は正選手7.51、補欠選手6.92、規則遵守度は正選手2.55、補欠選手2.26と、いずれも正選手の方が得点が高かった($t = 3.61, p < .01$; $t = 3.60, p < .01$; $t = 3.35, p < .01$)。

女子の指導力において、運動部×正補の交互作用($F(1, 409) = 7.52, p < .01$)、「遊び能力」においてが運動部×中高の交互作用($F(1, 409) = 4.59, p < .05$)が認められた。すなわち、指導力では球技関係の正選手2.65、補欠選手2.18、球技以外の正選手2.18、補欠選手2.18と、球技関係の正選手だけが他より高い得点になっている。

「遊び能力」では、高校生の球技関係と球技以外には差がみられず、それぞれ33.67、33.66と高い得点になっているが、中学生では球技関係32.79と球技以外30.83との差が明らかである(図3)。すなわち、中学生では「遊び能力」の高低に関係なく運動部に所属している可能性があるが、高校で本格的にスポーツをする場合に、「遊び能力」が高いことが重要な要因となっている点は指摘できる。

以上、子どもの頃の遊び及び遊び能力と部活動との関係を調査データをもとにみてきた結果をまとめると次のようになる。

スポーツと遊びはひじょうに関連が深いという点である。とくに顕著だったのは、球技関係の運動部や正選手の結果である。その人たちは、子どもの頃もボールを使った外遊びが活発だった。それは遊び能力においても一貫して表れた。運動部や正選手は「遊び能力」が他の人たちと比べて高い。「遊び能力」のなかでも指導力を含む「相互作用能力」が強く影響していた。遊び能力は、実際に集団のなかで本当に遊び込んでいないと育たない。子どもの頃にどんな遊びをしてきたかは、中高校時代の部活動を中心とする学校生活を左右するだけでなく、その人の自己形成に影響を及ぼしたり、スポーツライフの基礎を備えたりするのではないだろうか。

今回の調査では、所属する部のタイプによって、遊びやスポーツの経験、さらには遊び能力が関係していることを明らかにした。しかし、部活動への参加の動機には、個人の運動能力、スポーツ観、家族・友人関係、受験などの社会的背景などのさまざまな影響も考えられる。今後はそれらを要因に加えるとともに、幼児や小学生を対象にした調査を実施する予定である。

<引用・参考文献>

- 金崎良三・橋本公雄 1995 青少年のスポーツ・コミットメントの形成とスポーツ行動の継続化に関する研究：中学生・高校生を対象に．*体育学研究*, 39, Pp.363-376.
- 筒井清次郎・杉原隆・加賀秀夫・石井源信・深見和男・杉山哲司 1996 スポーツキャリアパターンを規定する心理学的要因：Self-efficacy Modelを中心に．*体育学研究*, 40, Pp.359-370.
- 白松 賢 生徒文化の分化に与える部活動の影響—高等学校を中心に— 1995 *紀要・子ども社会学研究* 日本子ども社会学会 1巻 Pp.80-92.
- 中比呂志・出村慎一 1992 青年期男子学生のスポーツ実施及び体力に及ぼすスポーツ意識・スポーツ条件の検討．*体育学研究*, 37, Pp.269-281.
- 森 楸 1992 遊びの原理に立つ教育, 黎明書房.
- 森 楸・湯地宏樹 1994a ファミコン子の特性に関する調査研究—小学生の場合—. *幼年教育研究*

年報, 第16巻, 広島大学教育学部附属幼年教育研究施設, Pp.1-10.

森 楸・湯地宏樹 1994b テレビゲーム遊びの多角的分析. 広島大学教育学部紀要, 第一部(心理学), 43, 広島大学教育学部, Pp.215-224.

森楸・湯地宏樹 1995 コンピュータ・リテラシーとテレビゲーム体験との関連分析 広島大学教育学部紀要 第1部(心理学) 第44号 Pp.167-174.

湯地宏樹・森 楸・井上 勝・中澤 潤・深田昭三・西田忠男 1997 幼児のメディア行動と遊びとの関連分析. 幼年教育研究年報, 第19巻, 広島

大学教育学部附属幼年教育研究施設, Pp.35-43.

山本教人 1990 大学運動部への参加動機に関する正選手と補欠選手の比較. 体育学研究, 35, Pp.109-119.

<付記>

本論文は1998年度～2000年度広島修道大学重点領域研究(テーマ「遊びやスポーツが子どもの心身の発達に及ぼす効果に関する研究」)によって行われた研究の一部である。